

下山 静香 (Shizuka Shimoyama) 氏 略歴

桐朋学園大学卒業。同室内楽研究科修了。99年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてマドリードへ。故 R.M.クチャルスキ、M.サバレタのもとで研鑽。その後バルセロナのマーシャル音楽院にて、C.ガリガ、故 C.ブラー(モンポウ夫人)、故 A.デ・ラローチャのもとでスペイン音楽研究を深める。スペイン各地、清里スペイン音楽祭ほかに招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。

03年、スペインの室内楽を紹介する主宰シリーズを開始。世界的アコーディオン奏者S.フッソングを迎えた第1回は「多彩な音色やアピール力の高い効果として弾きこなした知的な名手2人の好演」と評される。第2回はアンサンブル金沢首席チェロ奏者のL.カンタをゲストに、ガスパール・カサドの世界をテーマとした。第3回はフェデリコ・モンポウの室内楽と歌曲の世界を紹介、第4回は、常設の弦楽四重奏団として活躍するカルテット・エクセルシオを迎え、ファリヤとトゥリーナの室内楽作品を特集した。

2015年、朝日新聞社主催く浜離宮ピアノ・セレクション – 気鋭の今を聴くに選ばれ、スペインとラテンアメリカのプログラムでリサイタルを行う。主宰シリーズも複数展開、
「ラテンアメリカに魅せられて」では“知られざるクラシックの宝庫”ラテンアメリカのみに焦点をあて、新たな地平を広げた。
「おんがく×ブンガク」では毎回テーマ作家を設定し、自由な発想で作品世界へのアプローチを試みている。
インスティトゥト・セルバンテス東京主催「バルセロナ・エクスペリエンス」(2021年)に出演、インスティトゥト・セルバンテス東京／日本・カタルーニャ友好親善協会共催「サン・ジョルディの日」イベント(2023年)では「モンポウ生誕130年」をテーマにコンサート。飛騨高山音楽祭、ふくしま国際音楽祭、北とぴあ国際音楽祭などに出演。国外では、イタリア、キューバ、スペイン、ノルウェー、ルーマニアに招かれ演奏。

CDはソロで14枚(『レコード芸術』特選盤5枚・準特選盤5枚、『音楽現代』注目盤、タワーレコード月間推薦盤、読売新聞推薦盤ほか)、「デュオ・アニミス」として2枚をリリース。

これまでにNHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」、NHK-BS「ぴあのピア」、NHK-Eテレ「ららら♪クラシック」、TBS-BS「本と出会う」、NHK-FM、各地コミュニティFM、フランス国営ラジオなどに出演。

現在、ソロ・室内楽で演奏活動を展開しながら、執筆・翻訳・講演・朗読・楽譜校訂など多方面で活動。執筆分野では、単著に『まるごと1冊 スペイン音楽の本』(2024年度ミュージックペンクラブ音楽賞ノミネート)『裸足のピアニスト』、訳書に『サンティアゴ巡礼の歴史』『モーツアルトとコーヒータイム』があるほか、事典の編著、共著、翻訳、書評、エッセイ、雑誌や演奏会プログラムへの寄稿などを手がける。2024年2月より、『東京新聞』で「おんがく×ブンガク」連載中。

桐朋学園大学音楽学部、東京大学教養学部 非常勤講師。日本スペインピアノ音楽学会会長。

日本スペイン経済友好会会員 / 日本・カタルーニャ友好親善協会会員 / 日本ベネズエラ協会会員 / 在研会会員 / 桐生ふるさと大使。